

談話室 第15回

Lifo—図書館員が会う場所

1. はじめに

Lifo(リーフォ)とは、「わりと若め」の「図書館員」、または、この2つのキーワードに興味を持った人たちが参加し、「部活動」っぽいことをしている集まりです。図書館で働き始めたけれど、困った、なんだかよくわからないことが多い——誰もそう思ったことが1度や2度はあるのではないのでしょうか。Lifoのはじまりも、1人の「わからない」からでした。発足の経緯については『大学の図書館』に掲載された「図書館員の部活動—Lifoへようこそ—」¹⁾で詳しく紹介しています。新人図書館員たちが、この「わからない」ことを解決しようとして、また、図書館員同士が出会い、つながり合う場として、2007年12月、メーリングリスト(以下ML)をベースにした活動を開始しました²⁾。MLに取り上げられる話題は様々で、研修会の情報から見学会のお誘いや「今、業務でこれについて困っています、誰か助けて!」といったヘルプの声などもあります。

本稿では、『ACADEMIC RESOURCE GUIDE』「新人たちのコミュニティづくり—1年目のLifo活動記」³⁾掲載以降行われているLifoの主な活動を紹介するとともに、特に活気づいた関西エリアでの様子、そしてウェブ上での新たな試みをお話ししたいと思います。

2. 定例会—関東エリアの活動

図書館員に限らず組織に属する者なら誰でも、ルーティンワークに忙殺されながらも、ふとこれで良いのだろうかと不安になり、思い悩むことがあるのではないのでしょうか。東京を中心とした関東エリアのLifoでは、様々な思いを抱えた図書館員同士が出会い、意見交換する場として2, 3ヶ月に1回のペースで定例会を行っています。

北関東の公共図書館で働く、長谷川さんの場合、「自分のこの思いを他の図書館員に聞いてもらいたい」「できることならば、他の図書館員の悩みを分かち合いたい」という、互恵に基づく思いを長年持ち続けており、そんな思いをうまく受け止めてくれたのがLifoでした。

今年の4月から定例会に参加し始め、既に2度の発表を行い、他館種の若手図書館員のメンバーから様々な意見を得た長谷川さんは、「ノリが軽く、くだけた関係でもない。しかし、凝り固まった勉強会スタイルを取り、ついて行けない者は淘汰されてしまう、というものでもない。とても勉強になり、多くの同世代の刺激を受けつつも、居心地の良い場所です」と、単なる図書館好きの仲良しサークルではないことに惹かれたようです。



Lifoのホームページ <http://www.lifo-club.org/>

このような自由闊達な雰囲気の中で、今後も積極的に活動を続けて行きたいと思っています。

3. 遠足—関西エリアの活動

3.1 関西エリアの始まり

関西エリアは、本稿執筆者の一人である光森さんから、同じ大学図書館に勤務する石道さんに『大学の図書館』掲載記事⁴⁾が手渡されたことから始まりました。「学びたい、でもどこへ行けばいいのかわからない」と悩んでいた石道さんは、記事に紹介されていたLifoの目指すフラットな関係に惹かれて参加しました。しかし、その時点で関西の参加者は2人だったこともあり、関東のような定例会開催は難しく、MLを通じたやり取りが中心でした。しかしそれでも共に学ぶ仲間の存在は頼もしく感じられたのです。

その後、大学図書館に勤務して1年目(当時)の末田さんが加わりました。彼女が参加を決めたのは、1人で研究会や研修会に参加した場合、そのイベントに関する意見や考えを語り合う機会を持つことが難しい、という悩みがあったためです。Lifoに参加し、様々な考え方に触れることで、コミュニケーションの大切さ、同じ話題を共有し、考えていく楽しさを実感できました。

最近では、「Lifoに出会ってすぐに参加を決めた理由は『人との出会い』です」と話す新入部員・谷さんも合流し、関西エリアでも徐々に仲間が増え始めました。仲間が増えることによって、普段の業務ではじっくりと取り組みにくい課題や話題についても話し合えるようになってきています。

3.2 楽しいだけじゃない「遠足」

関西エリアの活動の大きな特徴として、各図書館員との交流や、そこから生まれる知、いわば実学を求め、「遠足」と題した各図書館への見学会を盛んに行っています。これまでに、大阪府立国際児童文学館、大阪産業労働資料館(エル・ライブラリー)、大阪府立中央図書館の3施設を訪れました。ここでは、その活動を少しだけ紹介したいと思います。なお、これら「遠足」の記録は、

Lifoのホームページにまとめて掲載しています。

3.2.1 第1回遠足 大阪府立国際児童文学館 (2009年3月28日)

大阪府立国際児童文学館は、図書館でもなく博物館でもない「文学館」という姿勢で、日本と外国の児童文学等に関する資料を網羅的に収集しています。明治期の児童書や捨てられがちな雑誌の付録、一点物の紙芝居など、他では保存されにくい資料を豊富に所蔵・管理している様子を知ることができました。また、絵本の読み聞かせ経験のある参加者により、その場で即席読み聞かせ会が行われるなど、参加者それぞれの経験や興味・関心は異なる一方で、同じ「図書館」というベースを持つ者同士ならではの見学会となりました。

3.2.2 第2回遠足 大阪産業労働資料館 (エル・ライブラリー)(2009年5月2日)

別の場所で出会った人の好意で実現した遠足もあります。企画展「働く人々の歴史展」開催時に実施した、大阪産業労働資料館(エル・ライブラリー)への遠足は、まさにそれでした。この図書館は、『大阪社会労働運動史』を編纂してきた財団法人大阪社会運動協会の資料室を引き継ぎ、労働組合・企業・市民団体の史料を収集・保存する資料館として刊行物の売り上げやサポート会員の寄付などの自主的財源によって運営されています。企画展の観覧後、実際に図書館を見学することで、館員の方をはじめ、ボランティアやサポート会員の大阪産業労働資料館(エル・ライブラリー)を支える姿を目にすることができました。

3.2.3 第3回遠足 大阪府立中央図書館 (2009年9月26日)

大阪府立中央図書館は、中之島図書館とともに大阪府立図書館を構成する大阪府の中心的公共図書館です。「生涯学習時代の大型図書館」として、大阪府以外の地域に対してもサービスを展開し、様々なニーズに対応できる工夫がされていました。当日の参加者は全員が大学図書館員でしたが、

障がい者や子どもへの配慮、大阪府内各図書館との連携など、日常業務の中では気がつきにくいことにも目を向けられたように思います。

3.3 関西エリアのこれから

これらの「遠足」にはLifoメンバー以外の参加もありました。自分の勤めている図書館とは異なる種類の施設を訪れることで、普段出会う機会の少ない人たちと出会い、その出会いがまた次の出会いを呼び、人のつながりがゆるやかに広がっていることを実感しています。関西エリアでの活動は、まだまだ始まったばかりですが、好奇心や興味、人とのつながりを大切にしながら、今後は自主的勉強会の実施など、実際の業務に生かせる活動も行いたいと考えています。

4. ウェブの活用と可能性

ここまで関東や関西の活動を中心に紹介してきました。では、Lifoの活動に参加するには関東や関西に行かなければいけないのでしょうか？いいえ、Lifoへの参加には、地域的な制限はありません。Lifoの仲間は全国にいます。Lifoをきっかけに各地域での活動を始めてみるのもいいですし、なによりLifoの活動のベースとなっているMLやLifo-Wikiなど、インターネットを活用することで、全国の仲間とつながることができます。Lifoのホームページで利用しているWikiシステム⁵⁾とは、インターネット環境とウェブブラウザさえあれば、誰でも簡単にコンテンツを作成でき、複数人数での共同編集も可能な、まさにLifoにぴったりのツールなのです。執筆者の一人である大谷さんは沖縄の大学図書館に勤務していますが、普段はMLやLifo-Wikiを通じてLifoの活動に参加しています。そして、各地方の研修に参加するときなど、Lifoのメンバーに会って交流を深めています。

ここでは、MLやLifo-Wikiが、どのような形で活用されているのか数例、ご紹介します。

4.1 Lifoのイベントの企画・広報・記録

定例会や遠足などのイベントの企画や広報、当

日の感想などはLifo-WikiやMLを通じて行っています。また、Lifo-Wiki上でのTwitterやGoogleマップとの連携も試みています。

4.2 定例会の中継

2章で様子を述べた定例会は、現在のところ関東エリアで開催しています。この定例会ではウェブを利用して遠隔地からも参加できるような仕組みも始めています。たとえば、Lifo-Wikiに発表のレジュメや議事録をアップロードしたり、SkypeやTwitterを活用した定例会の中継を試行しています。

4.3 Wikipediaへ図書館用語の登録

「リンクリゾルバ」「ラーニングコモンズ」といったなんとなくイメージはできるけれど、上手く説明できない近年のトピックがあります。Lifoではそんな図書館用語の解説を作成しています。解説文はMLやLifo-Wiki上で意見交換やたたき台の作成を行ったのち、Wikipediaへ登録しています。現在、「リンクリゾルバ」は登録済み⁶⁾、「ラーニングコモンズ」については編集中です。

4.4 ウェブを通じた活動のこれから

従来の活動ベースであるMLだけでなくインターネットを活用することでLifoの活動に物理的距離を感じさせないことが大きな目標です。そして、



LifoのTwitterのページ <http://twitter.com/lifoclub>

Lifo発のウェブサービスを開発したいという声も聞こえてきています。

5. おわりに

Lifoへ参加するにあたっての制限はありません。参加条件は、「わりと若め」の「図書館員」、または、この2つのキーワードに興味を持った人の「参加したい」という気持ちだけで十分です。今回の記事を読んで少しでも興味を持った人は是非参加してみてください。詳しい参加方法は、Lifoのホームページに記載しています。また、これまでに何度か述べたとおり、LifoはMLをベースに活動しています。その様子は『医学図書館』でも紹介しています⁷⁾。

本稿執筆にあたり、ML上で「Lifoでこんなことをやってみたい、あるいは期待していることを教えてください」という問いかけを行ったところ、次のような声が届けられました。

- Lifoには全国津々浦々から参加している方がいるので、遠方の図書館なども訪問、交流してみたいです。
- ボランティアなど社会的に貢献できること、できれば図書館という特性を活かしたものをやってみたい。
- 数年後のLifoも、「あ、これおもしろそうじゃない？」という誰かのひらめきを、そのままみんなで共有して実行できるような、今のそんな雰囲気を維持しつつ、誰もが気兼ねなく参加できるコミュニティだといいな。
- これからも、「自分みたいな者でも何かしてよいのだ」と思わせてくれ、さらにそれぞれの近場の集まりをつなぐハブのようなものでいてほしい。
- 自由な校風であるLifo、あまり一般的な「勉強」「研修」にこだわらず、それもあっていいのですが、今後もやりたいことのある人がそれができる雰囲気・環境にあるといいな、と思います。
- これからも、どんどん参加者が増えて、たくさ

んの「人との出会い」があるといいな、と思っています。

Lifoの良さは、「人とのつながり」「人との出会い」でありつつも、関わり方は人それぞれです。MLに登録すると、お誘いメールが届くかもしれませんが、活動への参加を強制することはありません。「隠れLifo」を標榜する人や、MLを一か月まとめて読むという人、はたまた飲み会なら行くという人もいます。自分のペースで、自分のやり方で活動に参加してみてください。Lifoは、いつでも新しい仲間を待っています。Lifoのwishリストにあなたのwishを加えてみませんか。みんなで持ち寄ればこそできることを、一緒に実現していきましょう。

チーム専図くん@Lifo

石道 尚子 (いしどう なおこ)

大谷 周平 (おおたに しゅうへい)

末田 真樹子 (すえだ まきこ)

谷 航 (たに わたる)

長谷川 拓哉 (はせがわ たくや)

光森 奈美子 (みつもり なみこ)

- 1) 恒田杏子、長屋俊、佐山暁子. 図書館員の部活動—Lifoへようこそ—. 大学の図書館, 2008, 27(4), p.61-63
- 2) 2009年9月現在、78名の登録があります。
- 3) <http://archive.mag2.com/0000005669/20090126011527000.html> (2009年10月5日)
- 4) 上記注1と同様
- 5) Wikiシステムについては以下をご参照ください。ウィキ—Wikipedia<<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%82%AD>> (2009年10月5日)
- 6) <http://ja.wikipedia.org/wiki/リンクリゾルバ> (2009年10月5日)
- 7) Lifoのメーリングリスト. 医学図書館, 2009, 56(3), p.213